

令和 4年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600066	事業の開始年月日	平成19年4月1日
		指定年月日	平成19年4月1日
法人名	株式会社寿エンタープライズ		
事業所名	グループホームいずみ		
所在地	(〒245-0016) 横浜市泉区和泉町7600-4		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和5年2月20日	評価結果 市町村受理日	令和5年5月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・グループホームいずみでは、「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに入居者様の気持ちを大切にしながら笑顔の絶えないホーム作りをしております。
・お一人ひとりが、今持っている力を活かし、掃除・洗濯・料理の準備など出来る事をして頂き存在意義を実感して頂いております。
・天気の良い日は、庭に出てお茶を楽しんだり散歩したりと穏やかな日々を送っております。
・職員との共同作業として、段ボール、折紙などを使用し季節毎の飾りを作成しリビングに展示しております。
・レクリエーションの一環としてラジオ体操をはじめオリジナル体操を毎日元気に行っています。
・地域との交流としては、獅子舞・初詣・こいのぼり大会・盆踊・子供神輿・子供太鼓などの参加がございましたが、近年コロナの影響により中止しております。月々の行事、イベントでは、ご家族様の参加はできませんが、グループホームいずみとしてできる事を、工夫、模索し、入居者様に楽しく生活して頂けるように取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年 3月22日	評価機関 評価決定日	令和5年4月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇利用者本位のケア ・事業所目標を「待つ、ゆっくり、あせらない、寄り添う」とし、目標達成のための具体的な取り組みとして「自分の仕事を優先せず、入居者のペースに合わせて仕事をする」という利用者本位のケアを実践している。一人ひとりの生活のペースやリズムを大切にし、また、利用者の自己決定を尊重しながら、現状や意向に即した支援を行っている。 ◇利用者の意向にそった入浴支援 ・入浴を楽しみにしている利用者が多く、週3回の入浴時間を楽しんでいる。職員は、会話を楽しみたい利用者には話しかけ、歌が好きな利用者とは童謡と一緒に歌い、一人ゆっくり入浴したい利用者には、脱衣所で見守るなど、利用者に合わせて支援している。 【事業所が工夫している点】 ◇「ふれあい新聞」で家族と地域へ情報発信 ・隔月に事業所の広報誌「ふれあい新聞」を発行している。カラー写真入りで事業所の行事や利用者の日々の様子を掲載した「ふれあい新聞」を家族に送付し、安心してもらっている。また、「ふれあい新聞」を自治会の掲示板に掲示し、回覧板にも入れてもらうことにより、地域に事業所を理解してもらっている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームいずみ
ユニット名	かぼちゃ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1 ###	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と事務所の目の届く場所に掲示しています。毎月会議の中で月々の目標を決め又年間目標を朝の申し送り時に唱和し、再確認しています。	「個人を尊重し安心して過ごせる環境作り」等4か条からなる理念を玄関と事務所に掲示し、職員に周知している。 ・毎朝、皆で決めた「寄り添うケア」等の事業所目標を唱和して確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、夏祭りや、どんど焼きには、入居者様と共に参加し、ふれあいを大切にしています。ホームでの行事には、地域の方をご招待し親睦を深めていますが、現在コロナ禍の為、できていません。	・コロナ禍で、利用者の地域行事への参加や事業所行事に地域住民の招待、ギター演奏、三味線、日本舞踊等の地域ボランティアと交流は自粛している。 ・現在は散歩時に挨拶を交わすなどで地域との結び付きを深めている。	・コロナ終息後は地域の行事に参加したり、ボランティアとの交流を復活したりして、利用者が地域の人々との交流を楽しめるような支援の再開が期待されます。
3	ホー	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの新聞「ふれあい」を、自治会の回覧板に入れてもらったり、掲示板にも掲示して頂くなど、ホームの理解を得ています。散歩のときなど近隣の方とのふれあいや会話をしたりと認知症への理解を深めて頂けるようつとめています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して地域との交流を深め、地域の方々から、地域の催事などの情報を得ています。ホームでの行事や事故についての報告を行い、意見交換や指導を頂いていますが、令和2年3月から中止しています。報告書はFAXにて、送っています。	・会議には、家族、自治会関係者、地域包括支援センター職員、民生委員が参加して、2か月ごとに開催してる。 ・現在は書面開催とし、利用者活動報告、ヒヤリハット、事故報告、地域への情報提供状況などをファックスで送信している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護担当者とは、電話にて情報交換を行い、入居者様の生活情報を伝え、相談、指導を受けています。地域ケアプラザとは、ケアマネ連絡会等の勉強会に参加し、意見・情報交換を行っています。	・区の高齢障害支援課、生活支援課と緊密に連携をとっており、諸手続きや、利用者、運営について助言を得ている。 ・地域ケアプラザとは研修や勉強会の場で意見交換をして、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月ごとに委員会を開催し、小さなことでも意識をもって学ぶ機会を持ち、情報を共有しています。	・身体拘束等適正化検討委員会を3か月ごとに開催し、知識や理解を深めている。 ・スピーチロックなどの行動制限や不適切な言動については全体会議で繰り返し情報を共有しながらケアに取り組んでいる。その結果、職員同士で注意しあえる環境にある。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議などで、虐待防止について勉強会を行っております。又、接遇委員の活動では、言葉による虐待について、具体的な事柄を元に学び、虐待防止に努めています。	・管理者は高齢者虐待防止法を学び、虐待が見過ごされないよう注意を払っている。 ・職員が虐待をおこす原因となる介護ストレスを抱え込まないように、管理者は職員の心身の状態を把握し、声かけをしたり相談に乗ったりして注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をすでに利用している入居者様については、後見人と情報交換を行い連携を取り合っています。勉強会を行い、職員の理解を深めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、ご本人様との事前の面接により、ご希望や疑問点をお聞きし、説明を行っている。契約時には十分時間を取って説明をし、疑問、質問にお答えし、納得を得たうえで安心して入居頂けるように心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設けています。面会時には、個別に意見等をお伺いし、家族会にて再度話し合い、その意見を反映していけるよう努めていますが、現在は、コロナの影響もあり、家族会は行っていません。お手紙や電話での対応を行っています。	・コロナ禍のため、家族の意見・要望を手紙や来訪時、電話連絡時に聞いている。 ・行事等の開催時季は、利用者の状態に合わせた季節や時間にしてほしいとの要望があり、一部は検討し運営に反映した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を通じて出し合った意見を検討し反映させています。また、必要に応じて本社から担当者に同席してもらい意見や提案を聞いてもらう機会を設け反映させています。	・管理者は各種会議で出される職員の意見を聞き、イベントや行事、介助方法等の提案を運営に反映している。レクリエーションの月間計画は職員が作成した。 ・職員は本社の担当者に直接、意見や提案を表出する機会もある。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間休日120日の確保とシフトに融通性を持たせ働きやすい環境作りに努めています。又、有給休暇も取得しやすいシフト調整にも努めています。	・定期的に人事考課を行い、職員の努力や実績、勤務状態等を評価し、処遇に反映している。 ・管理者は、職員との個別面談や日常の会話からメンタル面を含めて悩みや希望を把握して、心身の健康が保てるよう支援し、向上心を持って働けるよう努めている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的に参加し、発表の場を設け全職員に研修内容が把握できるようにしています。内部では食中毒感染予防やターミナルケア・虐待防止等の研修も行いました。	・資格取得の費用補助があり、資格取得後は処遇に反映している。 ・研修参加職員の報告書を全職員に回覧し、共有している。 ・管理者は個々のケアのスキルアップを図るため、OJTを行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の研修・意見交換に出席し情報収集に努めています。また、他の施設と職員の交換研修にも積極的に参加しサービスの質の向上に役立てていく取組みをしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ全員で、細やかな情報収集に努め、適切なケアを模索しご本人様との信頼を築いています。また、入居後、行動や表情の変化を見守り、声掛けをしながら、ご本人様に寄り添い、不安を和らげるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が話しやすい雰囲気作りをし、その思いに耳を傾け、御家族様の不安を取り除けるように努めています。見学時には年間行事の写真をご覧いただき、ホームへの理解の一助としています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームが、どのような場所であるかをお伝えし、ご理解いただく。御本人様の状態やご家族様の心境などに配慮し、サービスを開始しています。前もってご要望などの思いを書いて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1つの家族であるという認識の元、共用スペースの掃除や食器拭きなどを職員と共にしています。又日常生活を共にする事により関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは、入居者様のホームでの生活の様子を、毎月のお便りにて報告し、行事や家族会へのご参加を頂いております。来設頂いた折には、ご家族様の思いや、ご要望をお聞きし入居者様の支援に反映しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が気軽に訪問できる環境作りをしています。又、行きつけの美容院や病院受診、ガイドヘルパーさん対応により行きたい所への外出支援を行っていましたが、受診以外は、現在コロナの為中止しています。	・美容院など馴染みの場所に出かけていたが、コロナ禍で自粛している。 ・現在は散歩の際に近隣の方から花や野菜をもらったり、隣の畑で作業している方から情報を得たりと新しい馴染みの関係ができています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや散歩等を通し、利用者様同士が会話を楽しんだり協力し合えたりする関係を築けるよう支援しています。毎月製作する壁飾りやカレンダー作りは、個々の能力や個性を生かし、皆で作る喜びを共有し合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、行事などにお誘いしたり又、次の入居先へ訪問や面会に出掛け、交流の場としております。郵便物の返送の折には、近況を伺ったりし、相談支援も行っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活のふれあいの中から、入居者様の声に耳を傾け、一人一人の思いや、意見を汲み取り、ご希望に添えるように支援しています。また、把握の困難な入居者様には、その状態に沿って、カンファレンス等で検討しています。	・おやつを選んでもらうなど小さな希望や思いを引き出すようにしている。また、自己の気持ちを発信できるような支援もしている。 ・把握が困難な利用者は、関わりを多く持ち把握に努め、把握した希望や意向は職員間で共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の今までの暮らしを尊重し、日常生活で行ってきたことは、ホームでも継続できるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを崩す事のないように、現状把握に努めています。小さな変化を見逃さず、状況を把握しながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期、長期該当者の、モニタリングを毎月行い、居室担当を中心に情報収集、アセスメントを行い、モニタリングやプランの方向性を確認し、プラン作成に繋げています。家族様には、電話でのご説明や郵送時にプラン説明書を添付しています。	・本人、家族の意向を確認し、居室担当者が中心となりアセスメント、モニタリングを行い、職員、医療関係者と情報を共有し介護計画を作成している。 ・6か月ごとに作成する介護計画は家族に説明し、了解を得てから交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の個々の身体状況や、言動の変化などを記録する。職員間で共有・理解して確認の上、ケアに生かしている。又、新たな変化も随時記録・伝達して計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様の今現在のニーズの把握に努める。個々の生活史を尊重し、ケアプランに準じながらも、柔軟に変化させたサービスの提供を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、十分な交流はできていませんが、畑の手入れ時に、ご近所の方と十分な距離をとって、挨拶をしたり、野菜作りの情報を頂いたりと交流を深めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問内科医・訪問看護、訪問歯科と情報の共有をし連携を取ると共にチームによる健康管理の支援を行っている。また他の医療機関への受診希望には柔軟に対応しています。	・協力医の内科医、歯科医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受けている。訪問看護師は毎週、利用者の健康確認を行い耳の掃除等をするほか、相談にも乗っている。 ・専門医の通院は、後見人を依頼している利用者の場合、状況に応じてガイドヘルパーが同行している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護の際、それぞれの入居者様の日々の情報を伝え、共有しています。入居者様に異変がある時は、随時、助言・指示を受けられる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している医療機関には、定期的な訪問時に情報提供をしている。他の病院でも家族と医師の話し合いには、可能な限り同席をさせて頂き情報収集を行い、治療が速やかに出来るよう支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期に向けて、説明を行うと共に理解を得ています。重度化した場合は御本人、家族のご要望を考慮し、病院、各関係者と連携を密にし、その人らしい終末期を迎えられる様取り組んでいます。	・契約時に看取りの指針に基づき、終末期に向けての事業所の方針を説明し、同意を得ている。 ・重度化した場合、本人・家族の要望をふまえ、医師、家族、関係者で話し合い、その人らしい終末期を迎えられるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に必要な情報を一つのファイルにまとめ、見やすいところに設置しています。消防署の出張研修を依頼したり、防災委員が研修会に参加して、他の職員にも情報を共有し、勉強会を行い職員が実践出来る様指導している		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立ち合いの下夜間を想定した訓練を行い、指導して頂いています。毎月1回の訓練では色々な状況に対応できるように様々な想定で訓練を行っています。又、緊急連絡簿に地域の方の連絡先を記載し、協力を得ています。	・避難がスムーズにできるよう、毎月、地震や火災等災害の想定を変え訓練を実施している ・内、年2回は、消防署の協力の下、夜間想定での避難訓練を実施し、終了後、消防署員から初期消火や通報等について指導を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、尊厳を保つよう一人ひとりに合った声掛けを行っています。又、入居者様に寄り添い思いを大切にし感謝の気持ちを持ったケアを行っています。	・利用者その人らしい尊厳のある姿を大切にするため、人格を尊重する姿勢をもってケアしている。 ・入浴やオムツの交換時はドアを閉める、排泄の失敗は目立たないように対応するなどの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望や思いを伝える事が出来るような環境作りに努めています。また、一人ひとりの入居者様とお話をする時間を作りそのお話から思いを汲取る事が出来るよう心掛けています。ご本人が判断を決定出来る関係を築いてます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムやベースを大切にし、入居者様の意思や尊厳を保てるよう支援しています。また、状況に応じて個別対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを尊重し、その人らしい見出しなみが出来る様支援しています。又季節に応じた衣類選びや訪問理美容により好みの髪方も伝え、希望に添える様に支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を話題にした会話をしたり、味付けや盛り付けの工夫を行っています。又、もやしのひげ取りやすし飯を冷ましたり等、食材に触れて頂く機会を設けています。食後は食器拭き等手伝って頂いています。(コロナの影響により中止しています)	・献立表を見て話題にし、食事が楽しくなるような雰囲気づくりをしている。 ・行事食の正月膳、恵方巻、ちらし寿司や、外食会の代替えの出前等、食を楽しむ機会が多くある。 ・利用者はできる範囲で、調理、下膳、食器拭き等を手伝っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取制限のある方や、嚥下障害などその方にあった食事形態で提供しています。食事量や水分量を毎日・毎食記録して、適正な食事・水分の摂取量や栄養バランスの確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、入居者様一人ひとりに合った対応をし、毎食後に必ず行っていただいています。また、定期的に訪問歯科により、口腔ケアを実施し清潔保持に留意して病気の予防につなげています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の生活リズムに合わせてトイレ誘導を行い支援しています。又介助が必要な入居者様にはさりげない声かけを行い自尊心への配慮を行っています。	・介助が必要な利用者が多いが、生活リズムと排泄サインを見ながらトイレでの排泄を支援している。 ・声かけはさりげなく行い、あからさまにトイレに行くことが分からないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し個々に応じ、飲食物に考慮しています。また、訪問Dr・NSと相談しながら排便コントロールを行っています。又、運動などを日常生活に取入れ自然排便に繋げています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサイン、体調不良の方がいないか確認し、週3回の入浴をして頂いています。また、入浴中に会話、唄などを取り入れ、リラックスして気持ちよく入浴していただけるように努めています。また、皮膚の状態や体に傷などがいないか確認しています。	・入浴は週3回を基本とし、体力がなく入浴が無理な利用者には週2回、清拭で支援している。 ・入浴中は、職員とゆっくり会話したり、童謡を一緒に歌ってリラックスできるように支援している。 ・菖蒲湯、柚子湯は喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて室温を調整すると共に、冬季には加湿器、または濡れタオルなどにより、湿度も調整する事によって、安眠につながるよう支援しています。又、昼食後に午睡を取っていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を所定の場所に保管し、随時確認できるようにしている。日々の利用者様の状態を医師に報告し、薬を処方して頂いています。服薬時は、氏名・日時・薬袋数を点呼し、カップに薬を入れ、2名の職員が目視確認により、服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみながら体を動かせるようなレクリエーションを考慮して、支援しています。張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を生かした役割・楽しみごとが出来よう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、人の少ない時間帯等工夫して、紫陽花見学、お花見など実施しています。年2回の外食会は中止するも、入居者様の希望に沿った出前に変更しています。ガイドヘルパーを利用しての外出は、コロナ感染予防の為、受診以外中止しています。	・コロナ禍であり、散歩や外食会は自粛しているが、人出の少ない時間帯を見計らい、お花見と紫陽花見学を楽しんできた。 ・天気の良い日には玄関前の駐車場で外気浴を楽しみ気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の残存能力を見極め必要に応じて代行や同行支援をしております。また、預かり金として小口現金ノートを作り管理を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とのお電話の際は、他の利用者にも配慮しながら、居室で話していただくなどの支援をしています。また、入居者様へのお手紙などは、ご本人様にご覧頂き、のち整理保管していつでもご覧頂ける様にしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共用空間に、季節が感じられるカレンダーや塗り絵、壁飾りなどを掲示しています。トイレ、居室、浴室などには、貼り紙をする等してわかりやすくしています。照明・空調等入居者様の安全や体調に配慮し、こまめに調整しています。	・リビングの一角に畳コーナーを設け、利用者が落ち着いて新聞や本等を読んで寛げるよう配慮している。 ・利用者が職員と作った折り紙や書き初め等をリビングと廊下に飾り、季節感と生活感を感じるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナー等様々な居場所を造っています。また、気の合った利用者様同士でお話できるよう、状況に応じてテーブル席の席替えを行っています。また、リビングには常時パズル、塗り絵などを置き、自由に楽しんでいただけるよう工夫しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御本人の意思を尊重し、家具は使い慣れた物を使用して頂き、ご家族様からの手紙や写真を飾っています。今まで、過ごされていた空間に近い部屋作りに努めています。	・ベッドとクローゼットが備えられた居室に、使い慣れたテレビ、戸棚等を持ち込み、使い勝手が良いように配置している。 ・壁には家族の手紙や写真などを飾り、心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口やトイレなどに、利用者様がわかりやすいよう、名札やポスターなどを表示している。また、食器拭きや掃除など、できる事はして頂き、危険の無い様見守り支援をしている。		

事業所名	グループホームいずみ
ユニット名	とまと

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1 ###	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関と事務所の目の届く場所に掲示しています。毎月会議の中で月々の目標を決め又年間目標を朝の申し送り時に唱和し、再確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、夏祭りや、どんど焼きには、入居者様と共に参加し、ふれあいを大切にしています。ホームでの行事には、地域の方をご招待し親睦を深めていますが、現在コロナ禍の為、できていません。		
3	ホー	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの新聞「ふれあい」を、自治会の回覧板に入れてもらったり、掲示板にも掲示して頂くなど、ホームの理解を得ています。散歩のときなど近隣の方とのふれあいや会話をしたりと認知症への理解を深めて頂けるようつとめています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して地域との交流を深め、地域の方々から、地域の催事などの情報を得ています。ホームでの行事や事故についての報告を行い、意見交換や指導を頂いていますが、令和2年3月から中止しています。報告書はFAXにて、送っています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当者とは、電話にて情報交換を行い、入居者様の生活情報を伝え、相談、指導を受けています。地域ケアプラザとは、ケアマネ連絡会等の勉強会に参加し、意見・情報交換を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3か月ごとに委員会を開催し、小さなことでも意識をもって学ぶ機会を持ち、情報を共有しています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議などで、虐待防止について勉強会を行っております。又、接遇委員の活動では、言葉による虐待について、具体的な事柄を元に学び、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度をすでに利用している入居者様については、後見人と情報交換を行い連携を取り合っています。勉強会を行い、職員の理解を深めるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、ご本人様との事前の面接により、ご希望や疑問点をお聞きし、説明を行っている。契約時には十分時間を取って説明をし、疑問、質問にお答えし、納得を得たうえで安心して入居頂けるように心掛けています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各階に意見箱を設けています。面会時には、個別に意見等をお伺いし、家族会にて再度話し合い、その意見を反映していけるよう努めていますが、現在は、コロナの影響もあり、家族会は行っていません。お手紙や電話での対応を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やユニット会議を通じて出し合った意見を検討し反映させています。また、必要に応じて本社から担当者に同席してもらい意見や提案を聞いてもらう機会を設け反映させています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間休日120日の確保とシフトに融通性を持たせ働きやすい環境作りに努めています。又、有給休暇も取得しやすいシフト調整にも努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には積極的に参加し、発表の場を設け全職員に研修内容が把握できるようにしています。内部では食中毒感染予防やターミナルケア・虐待防止等の研修も行いました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会の研修・意見交換に出席し情報収集に努めています。また、他の施設と職員の交換研修にも積極的に参加しサービスの質の向上に役立てていく取り組みをしています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ全員で、細やかな情報収集に努め、適切なケアを模索しご本人様との信頼を築いています。また、入居後、行動や表情の変化を見守り、声掛けをしながら、ご本人様に寄り添い、不安を和らげるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方が話しやすい雰囲気作りをし、その思いに耳を傾け、御家族様の不安を取り除けるように努めています。見学時には年間行事の写真をご覧いただき、ホームへの理解の一助としています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームが、どのような場所であるかをお伝えし、ご理解いただく。御本人様の状態やご家族様の心境などに配慮し、サービスを開始しています。前もってご要望などの思いを書いて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1つの家族であるという認識の元、共用スペースの掃除や食器拭きなどを職員と共にしています。又日常生活を共にする事により関係を築いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様へは、入居者様のホームでの生活の様子を、毎月のお便りにて報告し、行事や家族会へのご参加を頂いております。来設頂いた折には、ご家族様の思いや、ご要望をお聞きし入居者様の支援に反映しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人の方が気軽に訪問できる環境作りをしています。又、行きつけの美容院や病院受診、ガイドヘルパーさん対応により行きたい所への外出支援を行っていましたが、受診以外は、現在コロナの為中止しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや散歩等を通し、利用者様同士が会話を楽しんだり協力し合えたりする関係を築けるよう支援しています。毎月製作する壁飾りやカレンダー作りは、個々の能力や個性を生かし、皆で作る喜びを共有し合えるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、行事などにお誘いしたり又、次の入居先へ訪問や面会に出掛け、交流の場としております。郵便物の返送の折には、近況を伺ったりし、相談支援も行っております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活のふれあいの中から、入居者様の声に耳を傾け、一人一人の思いや、意見を汲み取り、ご希望に添えるように支援しています。また、把握の困難な入居者様には、その状態に沿って、カンファレンス等で検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の今までの暮らしを尊重し、日常生活で行ってきたことは、ホームでも継続できるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムを崩す事のないように、現状把握に努めています。小さな変化を見逃さず、状況を把握しながら支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期、長期該当者の、モニタリングを毎月行い、居室担当を中心に情報収集、アセスメントを行い、モニタリングやプランの方向性を確認し、プラン作成に繋げています。家族様には、電話でのご説明や郵送時にプラン説明書を添付しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の個々の身体状況や、言動の変化などを記録する。職員間で共有・理解して確認の上、ケアに生かしている。又、新たな変化も随時記録・伝達して計画の見直しに生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・ご家族様の今現在のニーズの把握に努める。個々の生活史を尊重し、ケアプランに準じながらも、柔軟に変化させたサービスの提供を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、十分な交流はできていませんが、畑の手入れ時に、ご近所の方と十分な距離をとって、挨拶をしたり、野菜作りの情報を頂いたりと交流を深めています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問内科医・訪問看護、訪問歯科と情報の共有をし連携を取ると共にチームによる健康管理の支援を行っている。また他の医療機関への受診希望には柔軟に対応しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期の訪問看護の際、それぞれの入居者様の日々の情報を伝え、共有しています。入居者様に異変がある時は、随時、助言・指示を受けられる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している医療機関には、定期的な訪問時に情報提供をしている。他の病院でも家族と医師の話し合いには、可能な限り同席をさせて頂き情報収集を行い、治療が速やかに出来るよう支援しています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期に向けて、説明を行うと共に理解を得ています。重度化した場合は御本人、家族のご要望を考慮し、病院、各関係者と連携を密にし、その人らしい終末期を迎えられる様取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に必要な情報を一つのファイルにまとめ、見やすいところに設置しています。消防署の出張研修を依頼したり、防災委員が研修会に参加して、他の職員にも情報を共有し、勉強会を行い職員が実践出来る様指導している		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署立ち合いの下夜間を想定した訓練を行い、指導して頂いています。毎月1回の訓練では色々な状況に対応できるように様々な想定で訓練を行っています。又、緊急連絡簿に地域の方の連絡先を記載し、協力を得ています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、尊厳を保つよう一人ひとりに合った声掛けを行っています。又、入居者様に寄り添い思いを大切にし感謝の気持ちを持ったケアを行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で希望や思いを伝える事が出来るような環境作りに努めています。また、一人ひとりの入居者様とお話をする時間を作りそのお話から思いを汲取る事が出来るよう心掛けています。ご本人が判断を決定出来る関係を築いてます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、入居者様の意思や尊厳を保てるよう支援しています。また、状況に応じて個別対応も行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを尊重し、その人らしい見出しなみ出来る様支援しています。又季節に応じた衣類選びや訪問理美容により好みの髪方も伝え、希望に添える様に支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に献立を話題にした会話をしたり、味付けや盛り付けの工夫を行っています。又、もやしのひげ取りやすし飯を冷ましたり等、食材に触れて頂く機会を設けています。食後は食器拭き等手伝って頂いています。(コロナの影響により中止しています)		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取制限のある方や、嚥下障害などその方にあった食事形態で提供しています。食事量や水分量を毎日・毎食記録して、適正な食事・水分の摂取量や栄養バランスの確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、入居者様一人ひとりに合った対応をし、毎食後に必ず行っていただいています。また、定期的に訪問歯科により、口腔ケアを実施し清潔保持に留意して病気の予防につなげています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の生活リズムに合わせてトイレ誘導を行い支援しています。又介助が必要な入居者様にはさりげない声かけを行い自尊心への配慮を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し個々に応じ、飲食物に考慮しています。また、訪問Dr・NSと相談しながら排便コントロールを行っています。又、運動などを日常生活に取入れ自然排便に繋げています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタルサイン、体調不良の方がいないか確認し、週3回の入浴をして頂いています。また、入浴中に会話、唄などを取り入れ、リラックスして気持ちよく入浴していただけるように努めています。また、皮膚の状態や体に傷などがないか確認しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に合わせて室温を調整すると共に、冬季には加湿器、または濡れタオルなどにより、湿度も調整する事によって、安眠につながるよう支援しています。又、昼食後に午睡を取っていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を所定の場所に保管し、随時確認できるようにしている。日々の利用者様の状態を医師に報告し、薬を処方して頂いてます。服薬時は、氏名・日時・薬袋数を点呼し、カップに薬を入れ、2名の職員が目視確認により、服薬して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみながら体を動かせるようなレクリエーションを考慮して、支援しています。張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や、力を生かした役割・楽しみごとが出来よう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、人の少ない時間帯等工夫して、紫陽花見学、お花見など実施しています。年2回の外食会は中止するも、入居者様の希望に沿った出前に変更しています。ガイドヘルパーを利用しての外出は、コロナ感染予防の為、受診以外中止しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の残存能力を見極め必要に応じて代行や同行支援をしております。また、預かり金として小口現金ノートを作り管理を行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様とのお電話の際は、他の利用者にも配慮しながら、居室で話していただくなどの支援をしています。また、入居者様へのお手紙などは、ご本人様にご覧頂き、のち整理保管していつでもご覧頂ける様にしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング等の共用空間に、季節が感じられるカレンダーや塗り絵、壁飾りなどを掲示しています。トイレ、居室、浴室などには、貼り紙をする等してわかりやすくしています。照明・空調等入居者様の安全や体調に配慮し、こまめに調整しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナー等様々な居場所を造っています。また、気の合った利用者様同士でお話できるよう、状況に応じてテーブル席の席替えを行っています。また、リビングには常時パズル、塗り絵などを置き、自由に楽しんでいただけるよう工夫しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、御本人の意思を尊重し、家具は使い慣れた物を使用して頂き、ご家族様からの手紙や写真を飾っています。今まで、過ごされていた空間に近い部屋作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口やトイレなどに、利用者様がわかりやすいよう、名札やポスターなどを表示している。また、食器拭きや掃除など、できる事はして頂き、危険の無い様見守り支援をしている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームいずみ

####

作成日 令和5年4月25日

【目標達成計画】

優先順位	グループホーム	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ過収束後には、地域との交流を復活させる	コロナ過収束の折には、以前来訪してくれていた地域ボランティアさんとの交流を復活させ、入居者様の楽しみを増やす	地域ボランティアさんに以前のように来訪して頂けるよう、定期的に連絡をとっていく	コロナ過が収束するまで
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。